



武家と天皇

令和元年度企画展
岡山大学創立七〇周年記念
池田家文庫絵図展

2019 IKEDAKEBUNKO EZUTEN
Samurai Class and Tenno

御即位絵図



岡山大学附属図書館
Okayama University Libraries



岡山シティミュージアム



林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

武家と天皇

Samurai Class and Tenno

令和元年度 企画展
岡山大学創立七十周年記念

池田家文庫絵図展

- 会 期 令和元年10月19日(土)～11月4日(月・祝)
- 会 場 岡山シティミュージアム 5階 展示室
- 主 催 岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム
- 協 力 林原美術館
- 後 援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムは、共同で企画展池田家文庫絵図展「武家と天皇」を開催します。池田家文庫絵図展は、岡山大学と岡山市の文化事業協定に基づく事業であり、本年度で15回目の開催となります。

本展覧会は、岡山大学附属図書館の所蔵する江戸時代の備前岡山藩池田家の藩政資料である池田家文庫を、広く地域社会の皆様に公開し、親しんでいただくことを目的に企画しています。中でも池田家文庫の特徴のひとつである地図資料「絵図」を中心に展示しています。

今回の展覧会では、改元にあたり「武家と天皇」をテーマに天皇の即位の様子が描かれている絵図（「大嘗祭図」「御即位絵図」等）や、禁裏造営について示された指図、朝廷への祝儀の記録を綴った覚書や礼状、受取書などを展示します。特に「大嘗祭図」は建物の内部を見せるために、壁面の壁を折り曲げるようにして作られた起こし絵図（立ち絵図）となっており、なかなか目にする機会のない珍しいものです。

そもそも江戸時代は、天皇の影が最も薄かったといわれています。同時代の天皇が武家にとってどのような存在であったのか、岡山藩と天皇・朝廷との関わりについても、残された資料や絵図を元に、郷土の歴史を繙きます。

また、本展覧会では初めての試みとして、林原美術館のご協力のもと、特別展示コーナーを設けることとなりました。本展のテーマに沿って選定された林原美術館の収蔵品を間近にご鑑賞いただけます。これにより、池田家の文化遺産を受け継ぐ林原美術館の貴重な資料が本展覧会にも大きな華を添えてくれることでしょう。

2019年10月19日

岡山大学附属図書館
館長 今津勝紀
岡山シティミュージアム
館長 近藤雅明

関連行事

Event

オープニングトーク

日 時 令和元年10月19日(土) 午前10時～午前10時30分
場 所 岡山シティミュージアム 5階 展示室
講 師 岡山大学 特命教授 倉地 克直氏

講演会「『大嘗祭』の誕生 ―古代の皇位継承儀礼の生成と変異―」

日 時 令和元年10月26日(土) 午後2時～午後4時 (開場午後1時30分)
場 所 岡山シティミュージアム 4階 講義室
講 師 専修大学 名誉教授 荒木 敏夫氏

凡例

Introductory

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが令和元年10月19日(土)～11月4日(月・祝)まで開催する「企画展 池田家文庫絵図展『武家と天皇』」の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。また表記は岡山大学附属図書館所蔵の資料は図版番号、資料名、頁数、年代、池田家文庫整理番号、法量(タテ×ヨコ、cm)の順に記した。林原美術館所蔵の資料には林1から始まる番号を付し資料名、頁数、年代、林原美術館所蔵品番号、法量(タテ×ヨコ、cm)の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。林1～林5の写真は林原美術館の提供による。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学特命教授 倉地克直が執筆した。林1～林5については林原美術館主任学芸員 橋本龍が執筆、倉地克直が編集した。本書の編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次

Contents

I	2019年度絵図展「武家と天皇」解説	1
II	出展資料解説	4
III	出展資料目録	22
IV	池田家文庫絵図展・記念講演会開催記録	23

武家と天皇

日本の歴史において、天皇の存在は権力と権威の「源泉」であったが、そのあり方は時代によって大きく異なっている。一般に江戸時代は天皇の影が最も薄かった時代と言われる。江戸時代の国家は徳川將軍を中心とした武家権力によって担われていた。そのなかで天皇はどのような位置にあり、どのような役割を果たしていたのだろうか。

江戸時代の天皇

武家が権力の一端を担うようになる「源平争乱」以降、天皇の位は武家の意向に左右されるようになっていた。応仁の乱から戦国時代には朝廷の衰微が著しく、20年も即位式を行えない天皇が出るような状況であった。代替わりに伴う大嘗祭（即位後最初の^{だいじょうさい}新嘗祭^{にいなめさい}）も9代にわたって行うことが出来なかった。その後「天下統一」を進めた織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の後ろ盾によって正親町天皇・後陽成天皇・後水尾天皇が即位し、家康の孫の和子（東福門院）は後水尾天皇の中宮となっている。つまり、江戸時代の天皇は武家によって「再生」したと言っても過言ではない。

徳川家康は征夷大將軍に任じられ、天皇・朝廷の伝統的な権威を利用しながら、自らの権力を確立したが、他方では他の武家が天皇・朝廷と結び付くことを警戒し、その権威が一人歩きしないようにした。そのため元和元年（1615）に「禁中并公家諸法度」を定めている。これによって天皇の務めは学問・有職故実・和歌などに限定され、その存在は將軍の法によって行動を規定されるものとなった。朝廷と武家とのつながりは、すべて京都所司代を通じて行われることになり、朝廷側の窓口である武家伝奏は公家のなかから幕府によって人選され、就任に際しては血判誓紙を所司代に提出した。武家伝奏の役料は幕府から支給され、皇室や公家の領地も幕府によって宛行われたもので、幕府役人が管理に当たった。

皇室の財政基盤は脆弱であったので、重要な儀式も幕府の援助なしには行えなかった。幕府と朝廷の融和を進めた五代將軍徳川綱吉は、皇室領を1万石増やして3万石とし、戦国時代以来途絶えていた皇太子冊立の儀や大嘗祭の再興を援助している。

江戸時代の天皇に残された統治的な機能は、官位授与、改元、暦の制定に限られた。このうち改元は、室町時代以来將軍が内定し天皇が認可する慣例になっており、江戸時代もそれが続いた。また暦の制定は、貞享暦（1684年制定）以降その権限が幕府に移った。

武家にとって天皇・朝廷の存在が意味をもったのは、官位授与という面においてであった。武家内部の序列が、律令制以来の官位に順っていたからだ。徳川幕府は、官位授与を通じて武家権力内部に天皇の影響が及ぶことを避けるために、「禁中并公家諸法度」において「武家の官位は公家当官の外たるべき事」と定め、武家官位を別の体系におくことにした。これにより大名などの官位は幕府が決定して所司代が朝廷に取り次ぎ、そのとおりに叙任の文書が下されることになった。天皇・朝廷の役割は全く形式的なものであったが、それでもその存在は武家に意識されるものであり続けた。

官位授与をスムーズに進めるために、時代が下るにつれて、天皇の即位や遷幸（新築された御所に帰還する）などに際して、武家から祝儀が朝廷に贈られるようになる。もちろんこれらの行為は所司代の許可と指示のもとに行われた。

こうした朝廷関係の折衝のために、有力大名は京都に屋敷を設けるようになる。京都屋敷は江戸のように拝領によるものではなく、買得や借地による小規模なものであった。京都屋敷には日常的に所司代との連絡に当たる留守居が置かれた。京都留守居はそうした政治儀礼向きの御用の他、呉服など高級品の購買、京都の豪商からの借銀などのために商人たちと日常的に付き合うことも職務であった。岡山藩の場合、京都留守居が確認できるのは延宝4年（1676）からであり、このころから京都での活動が活発になると思われる。

江戸時代の京都では何度も大火事が起きている。それによって天皇や上皇（仙洞）の御所が焼けるのもたびたびであった。そのたびに御所の新築や修復が行われるが、皇室にはその普請を行う財力がなかった。そのため、御所の造営は、大寺社の場合と同じように「公儀」の事業として行われた。「公儀」の一員である大名は、その造営を將軍への御手伝い（奉公）として担わされた。この事業への参加も、大名と天皇・朝廷とのつながりを感じさせる機会になったことだろう。

天皇・朝廷と岡山藩

岡山藩と天皇・朝廷との関わりは、官位、造営、祝儀において確認できる。

武家の官位は家格によって概ね定まっており、岡山藩池田家の場合、家督相続前後に従四位下侍従になるのが通例であり、少将が極官（家格に応じた最高官職）であった。そのため歴代藩主は、他の大名との釣り合いもあって、「少将成」を目指してさまざまな働きかけを行った。その結果、在任期間の短かった宗政を除いた全ての藩主が少将になっている。分家の場合は、従五位下諸大夫が通例であった。

叙任の決定は位記や宣旨によって示されたが、その内容を口頭で伝える口宣を書き付けた口宣案も上卿（公卿）宛に発給された。これらの書類は家の由緒を示す貴重な文書であり、大切に保存された。

岡山藩池田家が御手伝い普請として禁裏の造営に携わったのは延宝3年（1675）が最初である。2年前の寛文13年（1673）5月9日の京都大火によって内裏をはじめ多くの殿舎が焼失した（これを機に延宝と改元される）。これらの建物は万治4年（1661）1月19日の大火で焼け（これを機に寛文と改元）、寛文4年（1664）に再建されたばかりであった。当時藩主であった池田綱政にとっては初めての御手伝いであり、朝廷関係の事業であることもあって、2度にわたって自ら普請の現場に立ち合っている。また新御所が完成し遷幸が行われた際には、天皇・中宮・上皇などに祝儀を献上しており、それに対してそれぞれから賜り物があった。

その後岡山藩は、明和7年（1770）に仙洞御所修復、文化14年（1817）に中宮御所造営・仙洞御所修復の御手伝いを務めている。

池田家は、この他にも天皇・皇室の即位・遷幸・出産などの慶事に献上を行っている。こうした祝儀を他の大名と横並びに行うことは、遅れを取らずに官位昇進を実現するために必要だと考えられたためだ。こうして池田家では天皇・朝廷の動向に日常的な関心を払うことになり、そのなかで大嘗祭や即位式の絵図の収集なども行われたに違いない。

大嘗祭は天皇即位後の最初の新嘗祭（稲の収穫祭）のこと。天皇即位にともなう重要行事だが、文正元年（1466）に後土御門天皇が実施してから220年間行われなかった。それが貞享4年（1687）の東山天皇の即位にあたり綱吉の支援によって復興された。池田家文庫に伝わる11「大嘗祭図」は図中に左大臣基熙・万里小路大納言・烏丸大納言・花山院中納言・正親町中納言の名前が見えるから、東山天皇の大嘗祭を描いたものである。220年ぶりの再興であったので

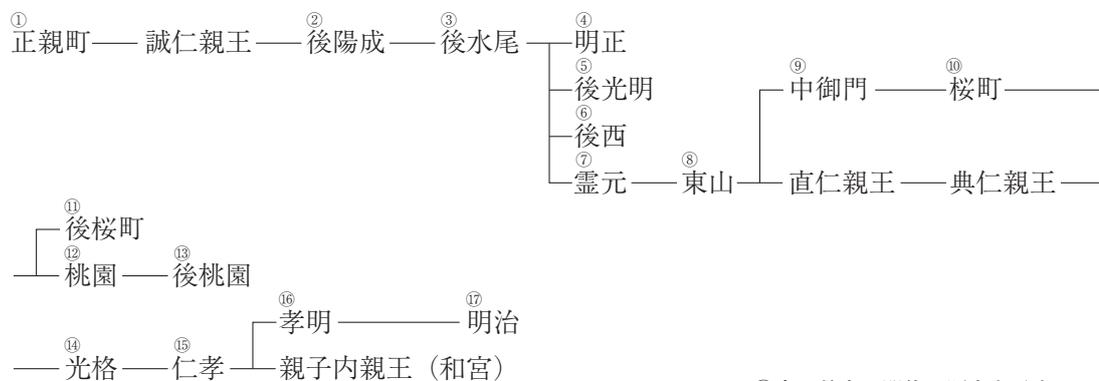
記念として作られた絵図が池田家に伝来したものと思われる。

即位の儀は、天皇が位に就く踐祚とは別に、諒闇（天皇が喪に服する期間）が明けた年の秋か冬に行われるのが通例で、明治天皇より前は中国式に行われていた。12「御即位絵図」では、高御座に描かれる天皇が女性のように見える。江戸時代には、明正・後桜町という2人の女性天皇がいる。江戸中期と考えられる図像の制作年代からすれば、在位期間が宝暦12年～明和7年（1762～70）の後桜町天皇の可能性が高いが、武家にとっての記念図とすれば、明正天皇（東福門院の娘）かもしれない。女性天皇の即位装束を描いたものとして貴重だが、制作・伝来の経緯については具体的にはよく分からない。

こうした絵図は、他の大名家でも存在が知られている。綱吉以降幕府と朝廷の和融が進み、それともなって江戸時代の後期には、武家の間で天皇・朝廷に対する関心が深まる。そのなかでこうした絵図に対する受容が高まったことは間違いないだろう。

（倉地克直）

〔江戸時代の天皇〕

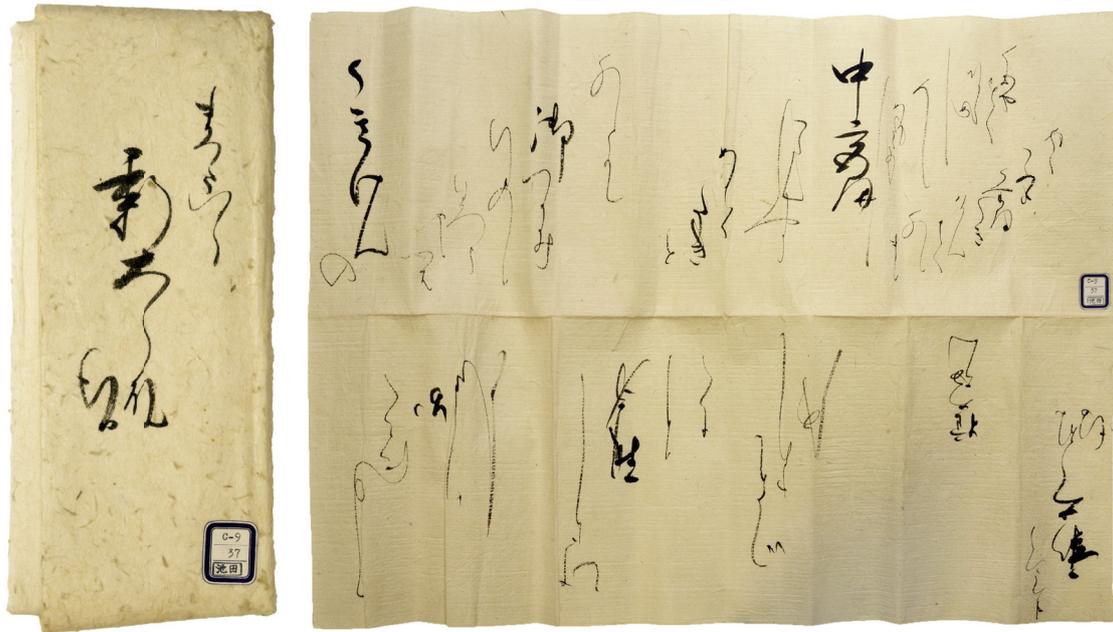


○内の数字は即位の順序を示す

1 松平新太郎宛権大納言局奉書

1通 年月日未詳 C9-37 43.2 × 58.4 包紙入
権大納言→松平新太郎（池田光政）

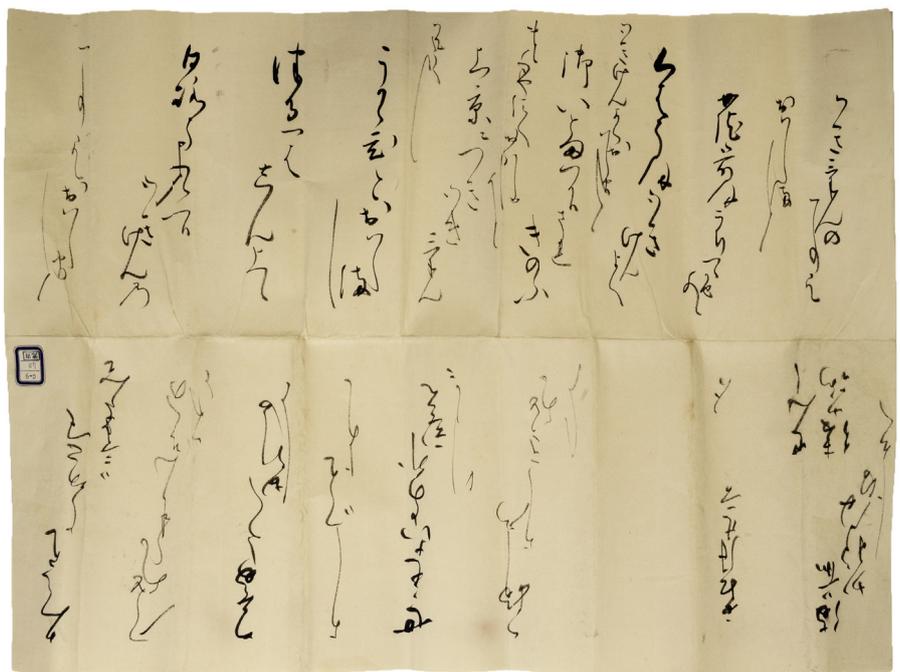
文中の「中宮」は、後水尾天皇の皇后である東福門院和子（徳川秀忠の娘）を指すと思われる。和子が興子内親王（のちの明正天皇）を出産し中宮に冊立されたのは、元和9年（1623）11月のこと。その後6人の子女が生まれている。この書状がそのいずれの時のものか定かでないが、光政が皇子女の誕生を祝い使いを送ったことに対する礼状である。「御ふた御所さま」（天皇と中宮）の意を権大納言局が奉じている。



2 備前少将宛綾小路宣旨局奉書

1通〔延宝5年（1677）〕11月22日 C9-42 42.7 × 57.8
綾小路宣旨→備前少将（池田光政）

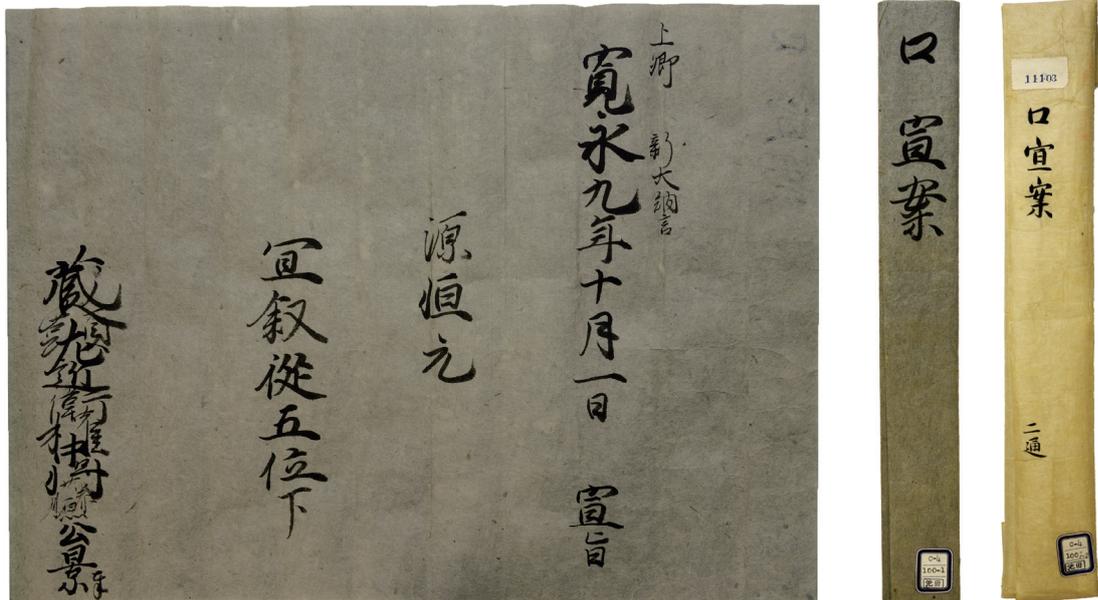
池田光政が「女院」（東福門院和子）に鶴1羽を献上したのに対する御礼状。延宝5年11月10日將軍から御暇を賜った光政は江戸を出発、21日に京都に着いて一条邸に止宿している（「池田家履歴略記」）。この月仙洞御所が完成し女院の遷幸が無事済んだことの御祝儀として光政が献上を行った。当時光政は既に隠居し、藩主の座を綱政に譲っている。



3 口宣案

1通 寛永9年(1632)10月1日
C4-100-1 34.2 × 46.7 包紙入

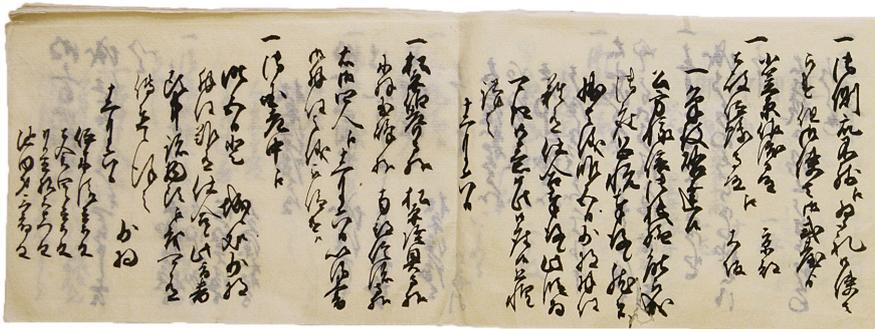
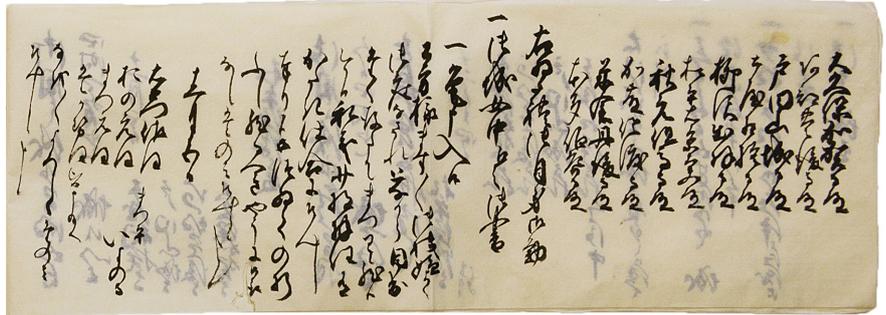
池田恒元を従五位下に叙する天皇の意を藏人頭藤原公景が奉じて告げた文書。恒元は池田光政の弟で、のちに宍粟山崎藩主となる。4とともに包紙に包まれ、蝶の意匠を施した蒔絵の箱に収められている。



8 綱政様御任官之節御勤覚書

1冊 元禄9～10年(1696～97) C4-14-5 14.0×41.2

池田綱政の少将成に際して、江戸および京都での諸方への口上・祝儀の記録。



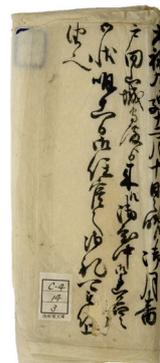
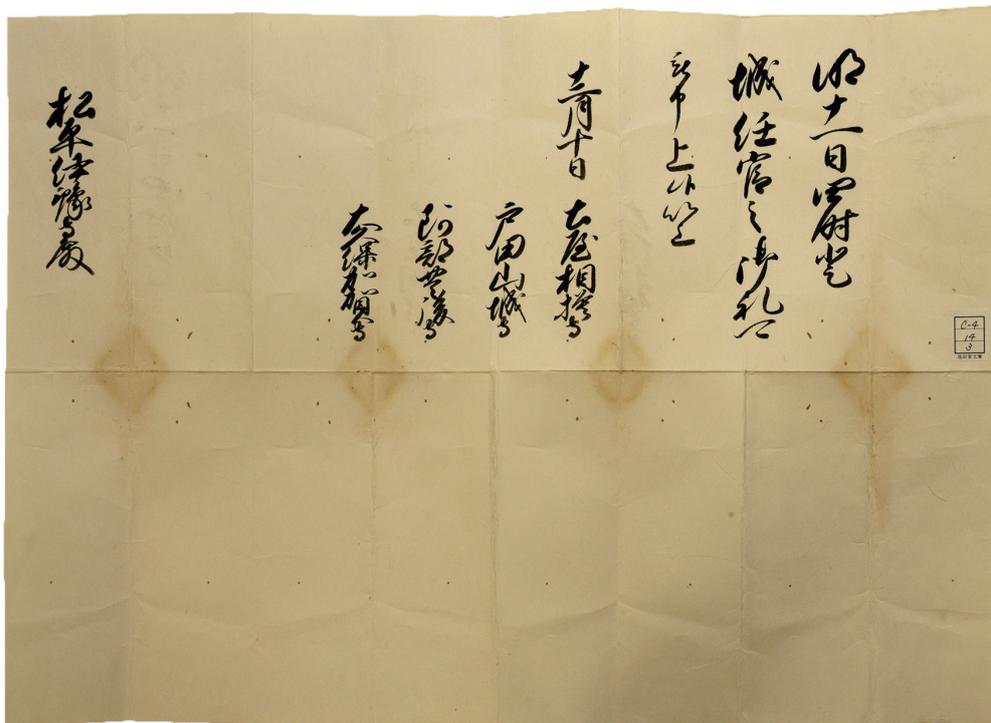
(見開きの画像を綴じのところで2つに切り、右半丁を上・左半丁を下に掲げた)

9 松平伊予守宛老中連署書状

1通 元禄9年(1696)12月10日 C4-14-3 40.5×56.2

包紙入 大久保加賀守・阿部豊後守・戸田山城守・土屋相模守→松平伊予守(池田綱政)

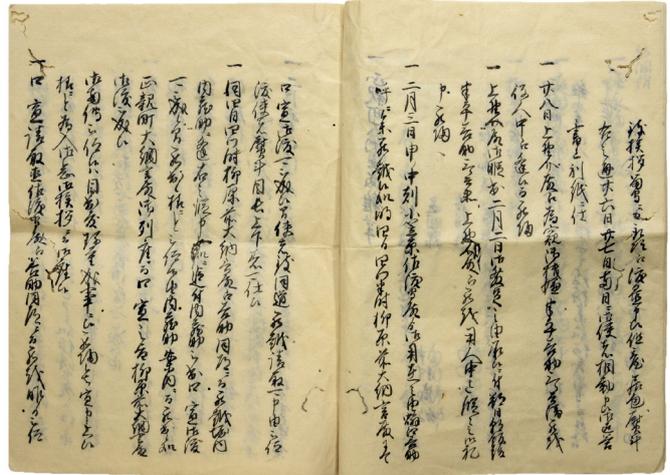
少将任官の御礼に登城すべきことを知らせる江戸幕府老中からの書状。包紙上書きから月番老中戸田山城守から届けられたことが分かる。



10 曹源寺様御任官ニ付京都ニ而之趣

1冊 元禄9～10年(1696～97)
C4-108-3 28.0 × 20.8

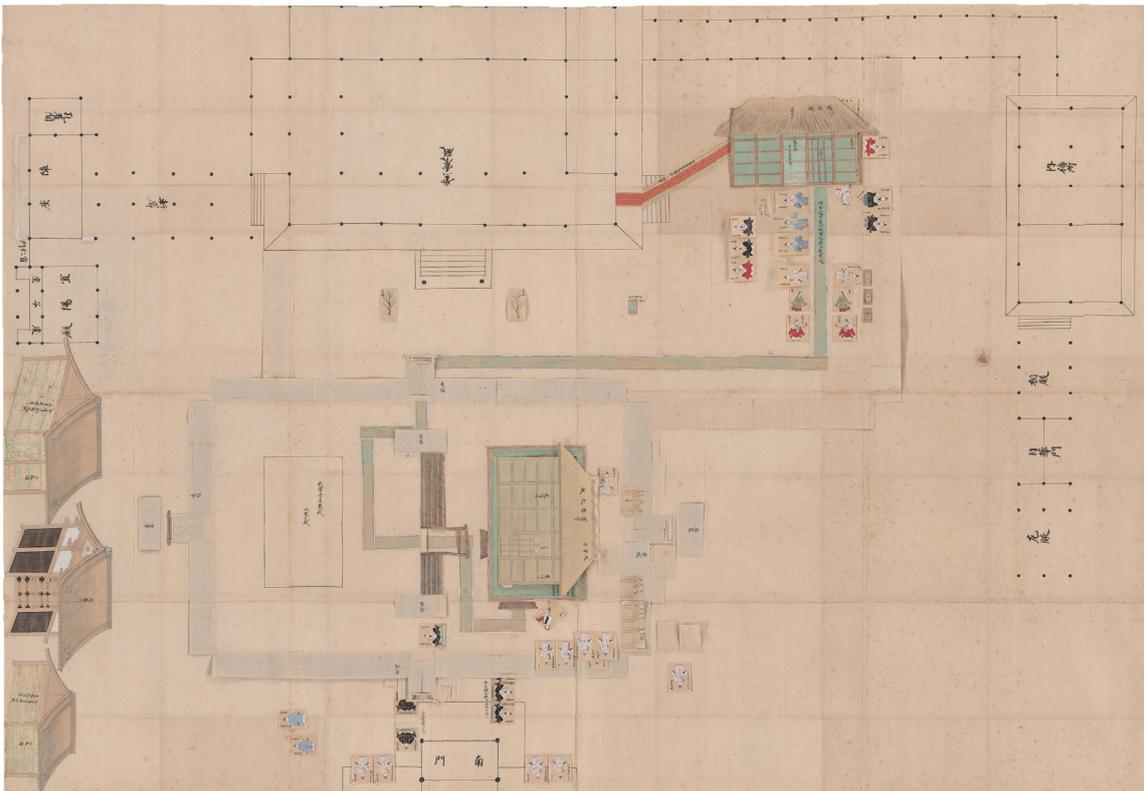
池田綱政の少将拜任のために、水野三郎兵衛らが京都で行った所司代や朝廷との遣り取りを記録したもの。表紙に「元禄九年十年之御留帳ならびに水野三郎兵衛御奉公書之内より書抜之」とある。後の藩主の少将成のときに先例として作成されたものか。



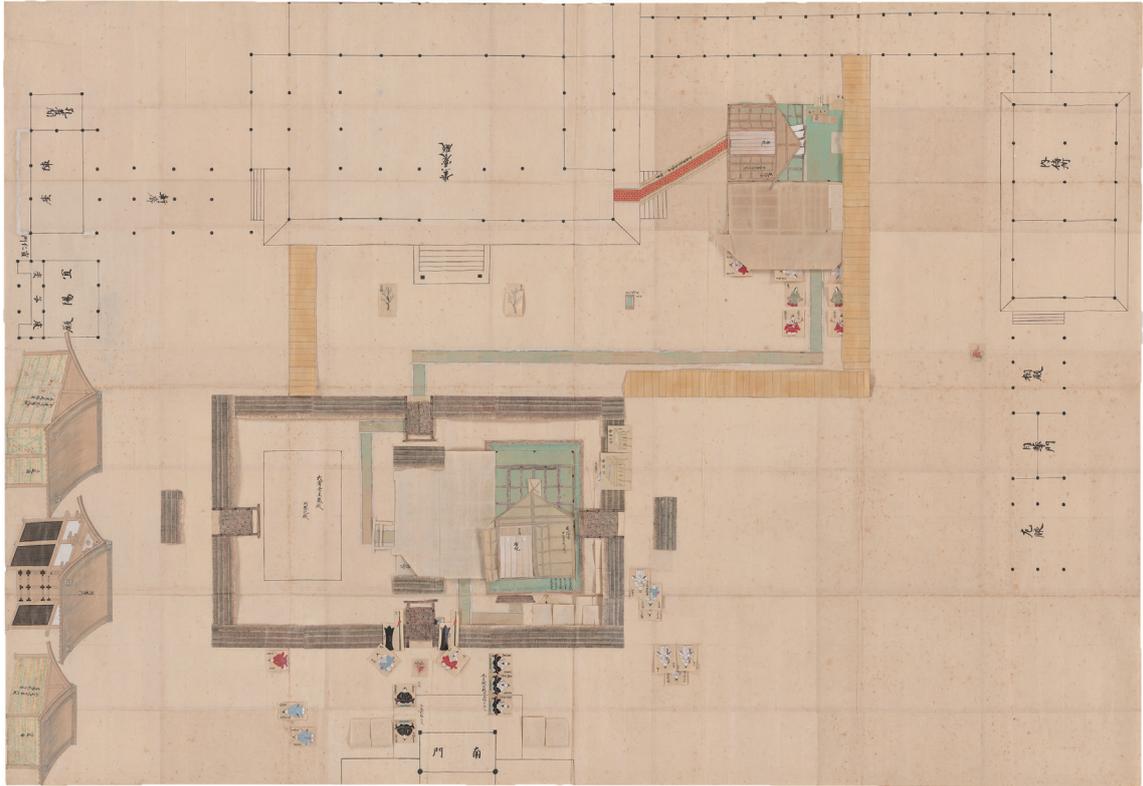
11 大嘗祭図

1鋪 年月日未詳 T13-90 184.6 × 267.4

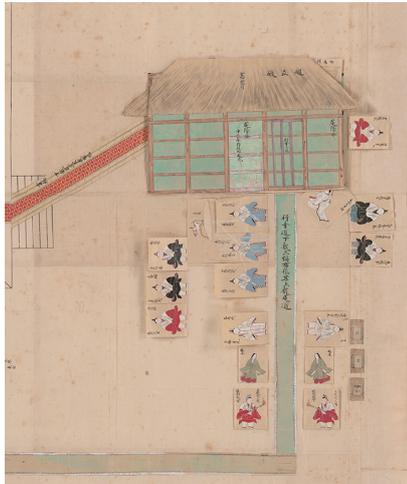
貞享4年(1687)の東山天皇の即位にあたり綱吉の支援によって復興された大嘗祭の様子を描いた絵図。天皇が儀式を行う廻立殿・悠紀殿が設けられ、11月卯日に祭が行われ、朝廷の官人が控えた。この時の復興は簡略な形であったため、主基殿は建てられなかったか。廻立殿・悠紀殿の内部を見せるために、建物の壁を折り曲げるようにした起こし絵図(立ち絵図)になっている。



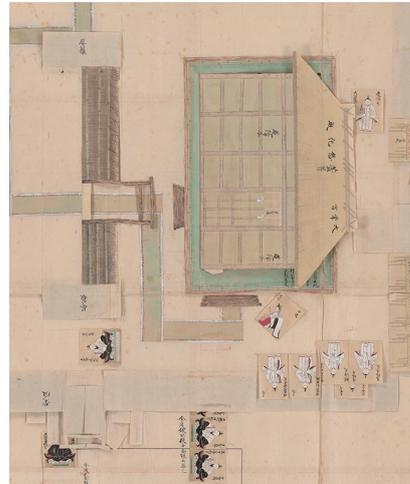
(建物の外壁を立て、囲いを倒して、公卿などの姿が見えるようにしたもの)



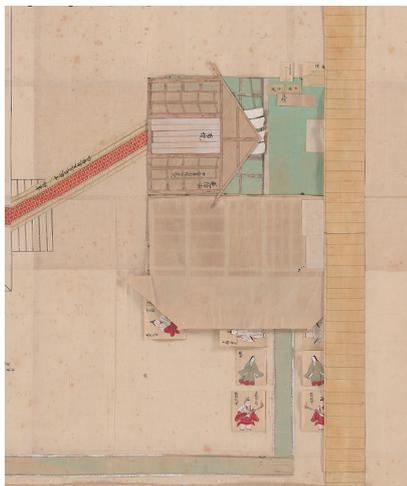
(建物の外壁を倒し、囲いを立てて、建物の内部が見られるようにしたもの)



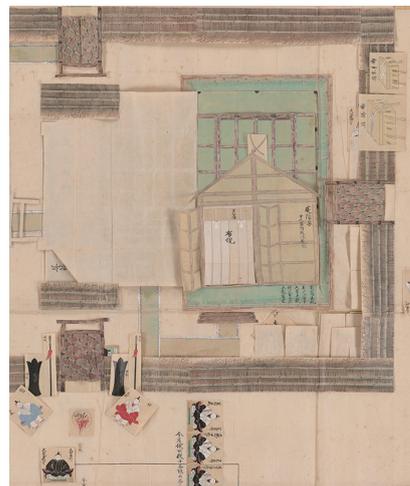
(廻立殿外観)



(悠紀殿外観)



(廻立殿内部)

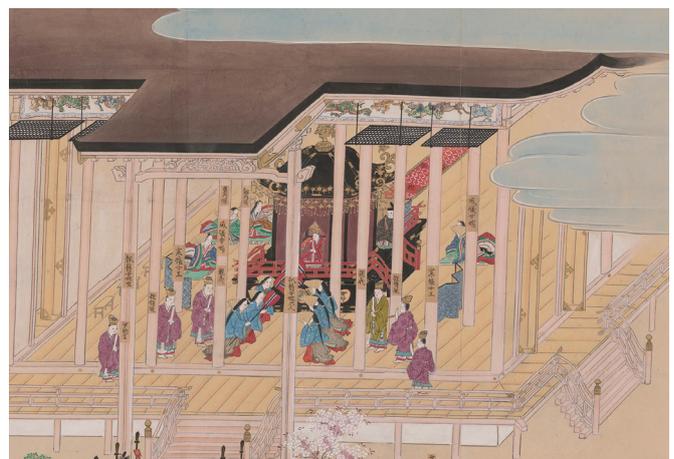


(悠紀殿内部)

12 御即位絵図

1 鋪 年月日未詳 T13-91 95.5 × 153.5

高御座に描かれた天皇は女性のように見える。後桜町天皇の即位の様子を描いた可能性が高い。後桜町天皇の即位にあたっては、池田家から家老の池田主殿が名代として祝儀の使者を勤めている（「留帳」）。

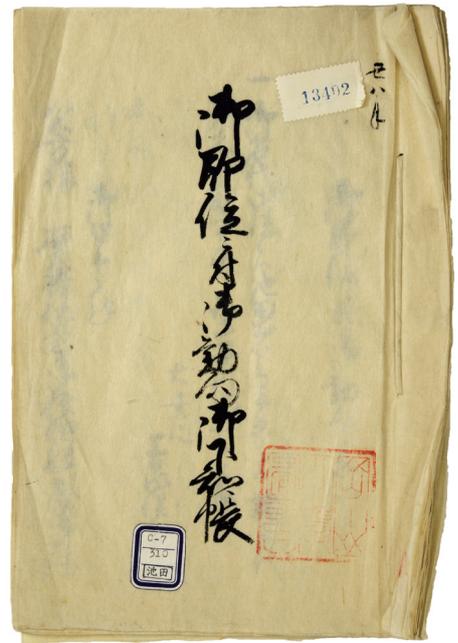


(紫宸殿に設けられた高御座)

13 御即位ニ付御勤向御下知帳

1冊 文化14年(1817)8月 C7-310 24.8×17.2

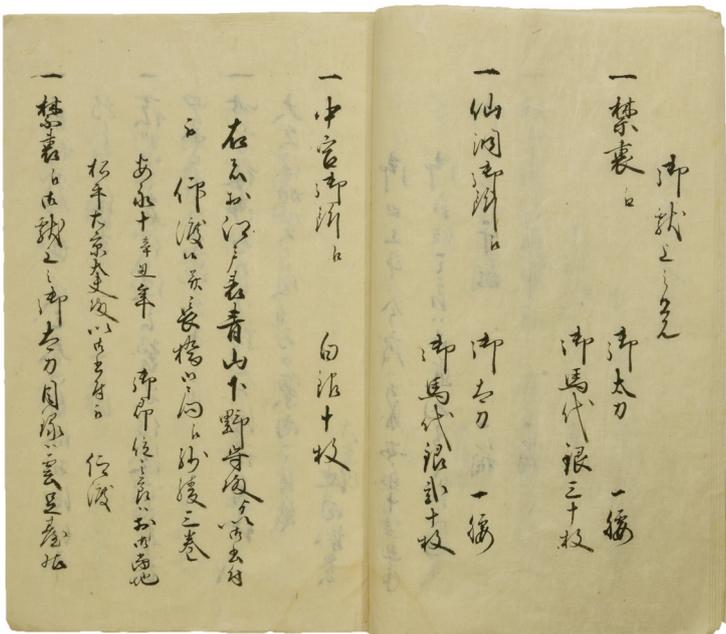
仁孝天皇の即位にあたり、藩主名代の祝儀使者として家老の池田出雲が送られた。その京都での勤め向きを記録したもの。貼紙がいくつかあり、後の事例に参照されたか。



14 御即位ニ付御勤向御下知帳

1冊 文化14年(1817)8月 C7-311 25.0×16.8

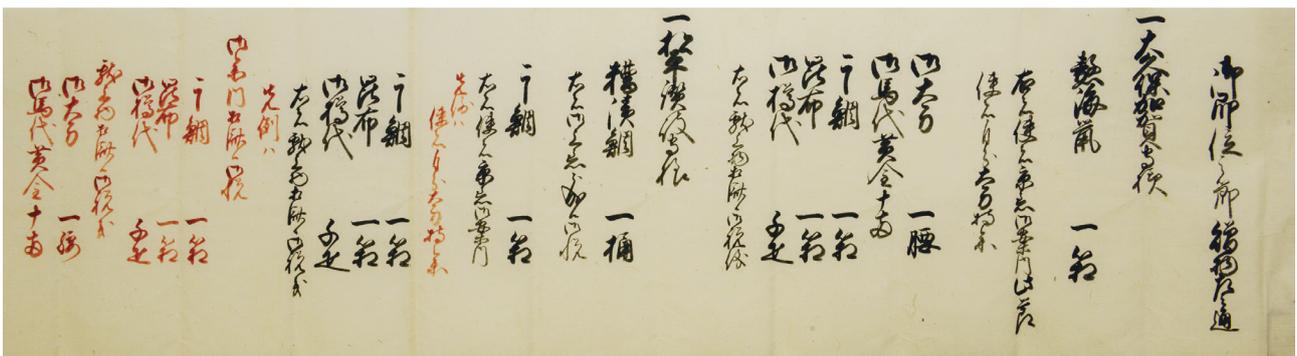
13と同じ内容。やはり貼紙・朱書がある。



15 御即位之節御贈物書付写

1通 [文化14年(1817)] C7-323-1
16.7×122.0

仁孝天皇の即位にあたり、所司代(大久保加賀守)・幕府上使(松平讃岐守)、禁裏伝奏(山科前大納言・広橋前大納言)などに贈った祝儀の書付。端裏書に「御即位之節御贈物書付写/文化十四丑年之分」とある。

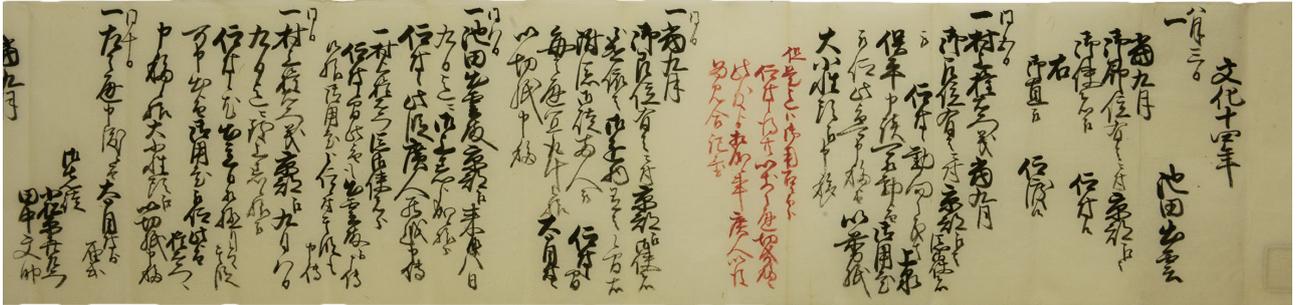


(後略)

16 〔御即位ニ付御使者勤方書付〕

1通 文化14年(1817)8月3日~10月28日 C7-323-2 16.6×195.3

8月3日から10月28日まで名代使者池田出雲・添使者村上権右衛門の勤め向きを記録したもの。端裏書に「小仕置留写」とある。15・16の2通が帯封でまとめられている。

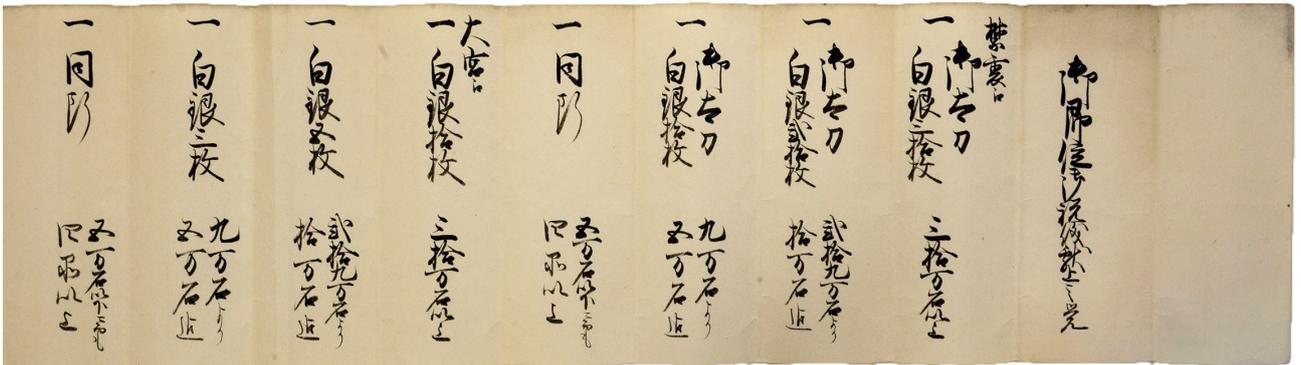


(後略)

17 御即位御祝儀献上之覚

1通 〔文化14年(1817)〕7月 C7-324-1 19.6×108.2

仁孝天皇の即位にあたり禁裏および大宮への献上を酒井若狭守(老中)の差図に従って行うことを指示した幕府からの書付。

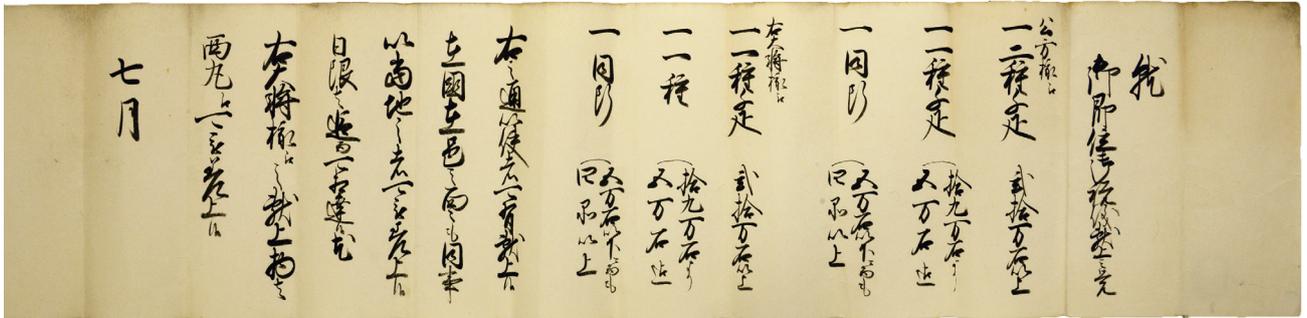


(後略)

18 御即位につき御祝儀献上之覚

1通 [文化14年(1817)] 7月 C7-324-2 196 × 83.6

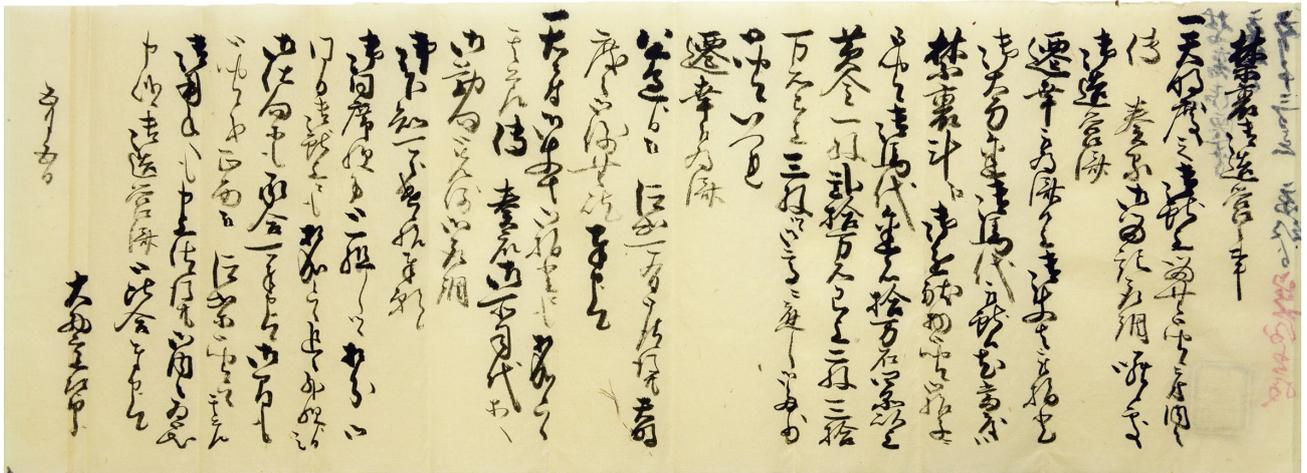
仁孝天皇の即位にあたり公方および右大将への献上物について指示した幕府からの書付。17・18の2通が「御即位ニ付御献上物御達書」と上書きした帯封でまとめられている。



19 [禁裏御遷幸御祝儀使者につき先例書付]

1通 [安政2年(1855)] 5月5日 C7-340-1 16.5 × 46.4 大西定次郎

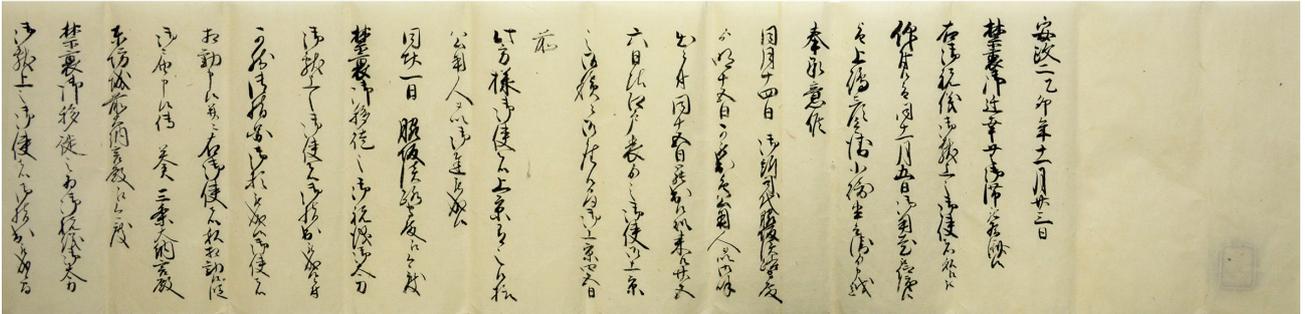
禁裏造宮遷幸の祝儀については天明度の御献上留に記録がないので、内々に伝奏の御留記を調べてもらった結果を知らせる、とある。それでは太刀と馬代を献上しており、馬代は30万石以上は黄金3枚であった、とのこと。大西は京都留守居。



20 首尾書

1通 安政2年(1855)12月10日 C7-338-4 17.8 × 339.4 大西定次郎 包紙入

11月5日に使者を仰せ付けられたことから、12月10日に伝奏三条大納言に御礼の挨拶を行うまでの勤めの始終を記録したものの。

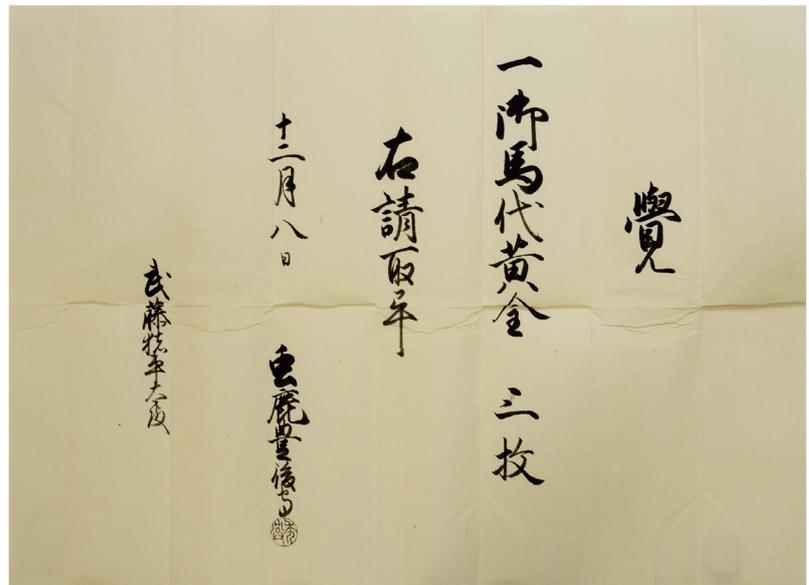


(後略)

21 御馬代受取書

1通 安政2年(1855)12月8日
C7-338-1 36.0 × 49.2
虫鹿豊後守→武藤猪平太 包紙入

馬代黄金3枚の受領証。虫鹿は禁裏付き役人、武藤は岡山藩の名代使者。

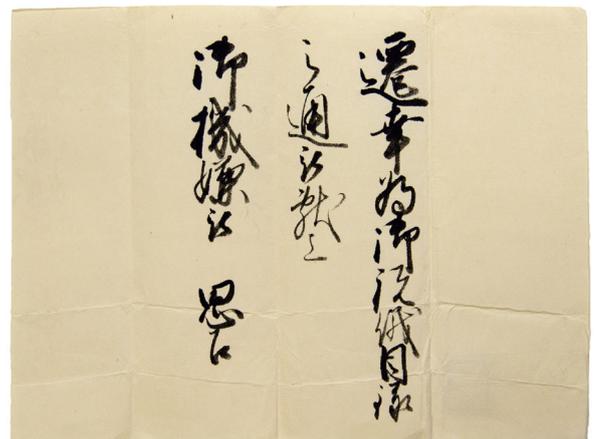


22 返答書

1通 [安政2年(1855)12月10日]
C7-338-3 19.8 × 25.8 包紙入

伝奏の三条から伝えられた祝儀に対する天皇の謝意をメモした書付。

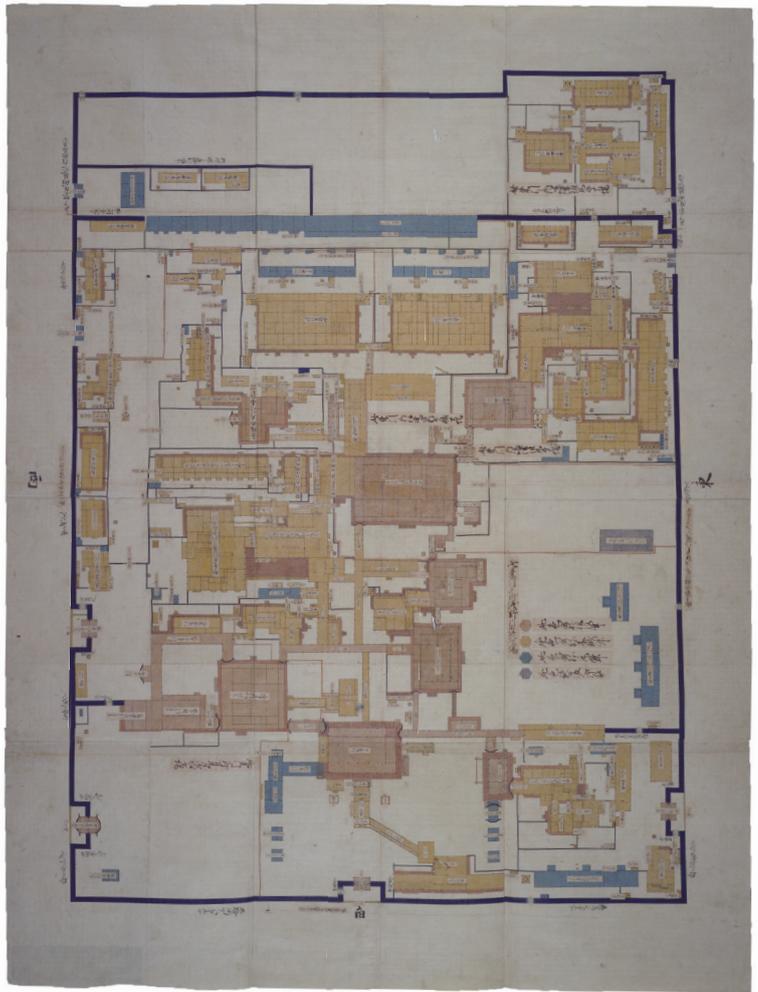
20・21・22は、京都留守居の大西から国元へ送られた書付6通が紙縫りで括ってまとめられているなかのものである。



23 禁中御指図

1 鋪 寛文4年(1664)8月
T7-9-1 111.5 × 83.8 袋入

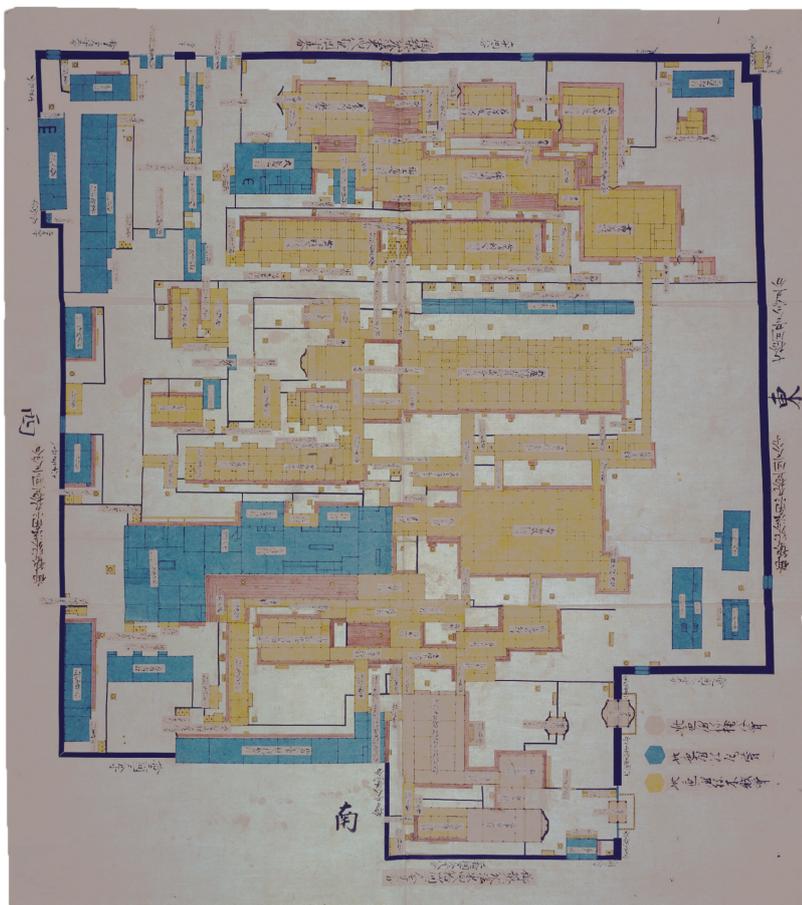
24「新院御所御指図」と一緒に袋に入れられており、袋には「故大御納戸」と記した貼紙がある。造営を担当したのは、「伊達宮内少輔」(伊予吉田藩)・「嶋津但馬守」(佐土原藩)・「浅野内匠頭」(赤穂藩)・「有馬左衛門佐」(延岡藩)で、それぞれ担当の丁場が朱線で区切られている。建物は「屋柙桧皮葺」「屋柙木賊葺」「屋柙瓦葺」「修復之家」に色分けされている。岡山藩が延宝3年(1675)の造営にあたって参照したものと思われる。



24 新院御所御指図

1 鋪 寛文4年(1664)11月
T7-9-2 64.8 × 57.0

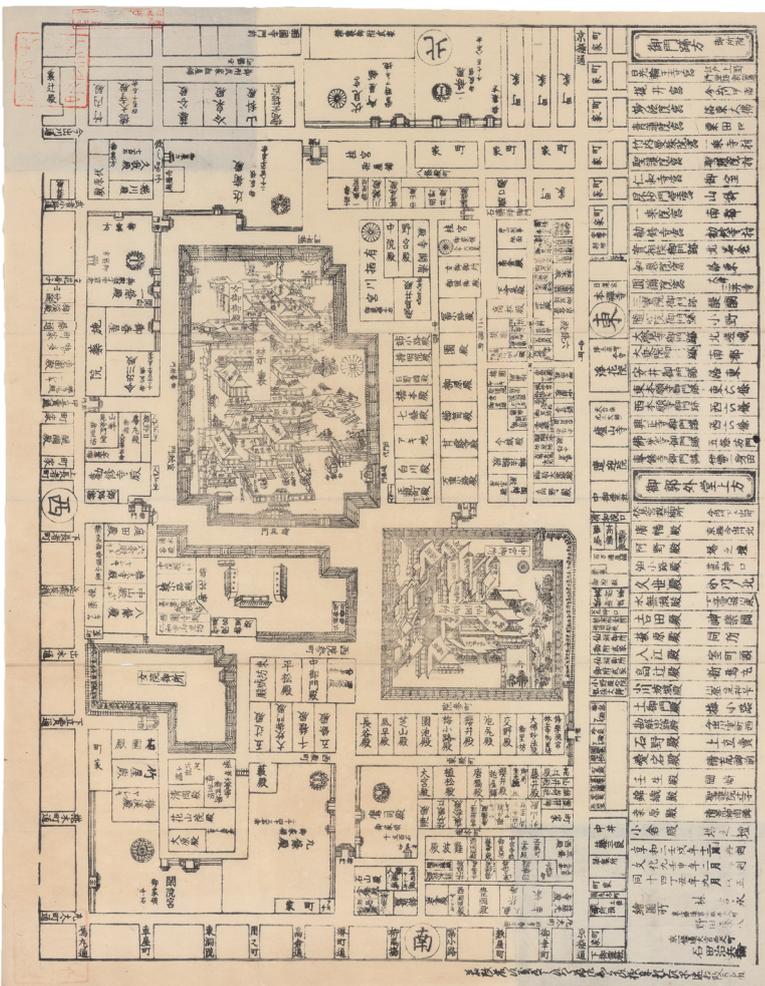
23と同じ寛文4年(1664)造営のときの指図で、延宝3年(1675)の御手伝普請に際して岡山藩が利用したもの。丁場を区切る線や担当大名の名は見えない。



25 禁裏様御庭御絵図之写

1枚〔延宝3年(1675)〕
T7-11 108.3×91.6 包紙入

延宝3年(1675)の禁裏造営御手伝普請に際して岡山藩が作った絵図の1枚。禁裏御学問所前の庭の様子を描いている。包紙貼紙に「大納戸」とある。



26 新改内裏図

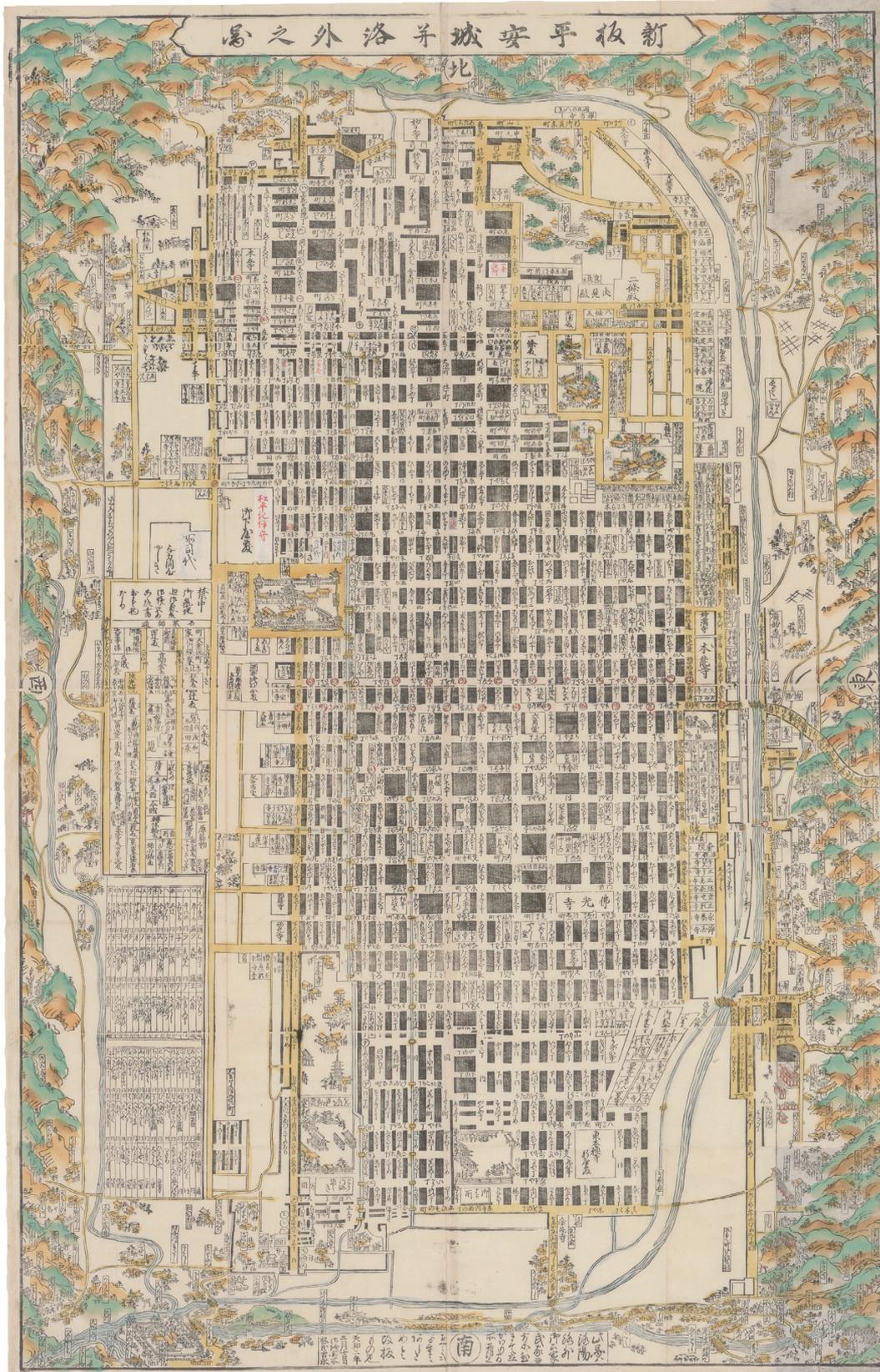
1枚 文化14年(1817)9月
T9-119 59.0×46.4

禁裏・仙洞御所を中心に、皇族や公家衆の屋敷の配置を示した図。林吉永の板を享和2年(1802)に京一条通大宮西江入町石田治兵衛他が再刻したものの改訂版。何度も版を重ねたようで、こうした絵図の需要がそれなりにあったことを示している。欄外に変更すべき箇所があれば知らせてくれるように頼んでいるのも興味深い。正確な情報提供が刊行図の命であった。

27 新板平安城并洛外之図

1 鋪 天和2年(1682)3月 T9-127 93.2×59.4 墨刷手彩色

江戸時代でも比較的早い時期の刊行京都図。「御絵図所林氏吉永」が改板したもの。「一条政所」「政所下やしき」「政所」「御屋敷」(岡山藩京屋敷)などの貼紙とともに、所司代下屋敷には「松平紀伊守」という貼紙がある。松平紀伊守(信庸)の在任期間は、元禄15年(1702)から正徳4年(1714)までだから、その頃岡山藩で利用されたものか。貼紙はいずれも朱書。

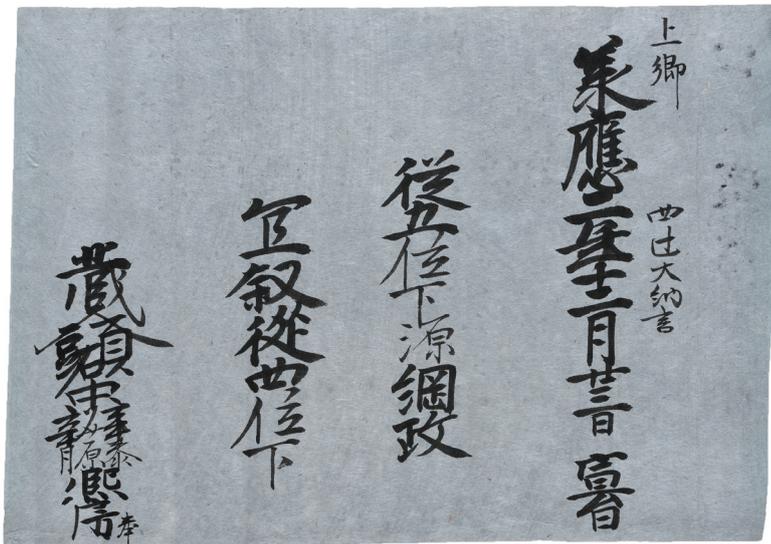
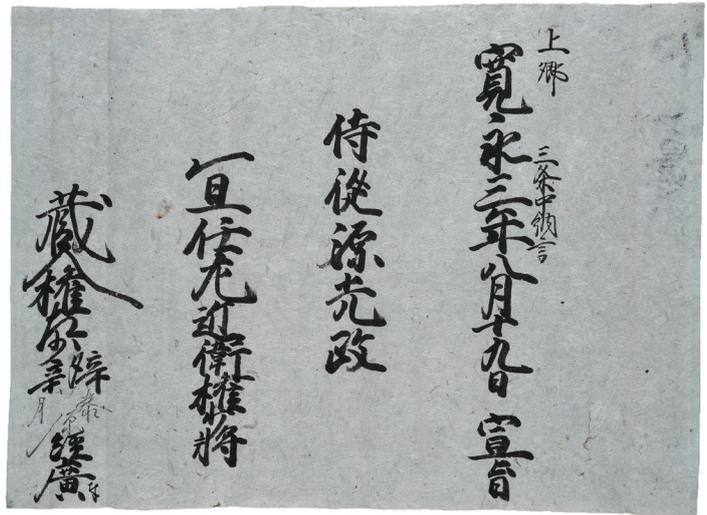


【林原美術館協力展示】

林1 口宣案

1通 寛永3年(1626)8月19日
池田家資料17-1-3 36.4×47.5 包紙入

寛永3年(1626)に初代岡山藩主の池田光政(1609～1682)が左近衛権少将を拝任した時のもの。口宣案とは、朝廷で天皇の勅命をうけた蔵人がその内容を書き記して上卿へ伝達した文書。光政に関する口宣案はこれ以外に、元和9年(1623)8月6日付で従四位下と同日付で侍従を拝任したものが伝来する。



林2 口宣案

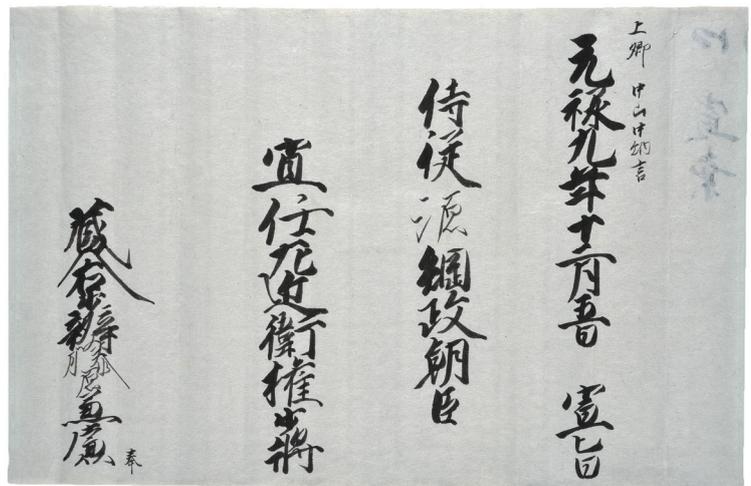
1通 承応2年(1653)12月23日
池田家資料18-1-3 37.0×61.0
包紙入

2代岡山藩主の池田綱政(1638～1714)が承応2年(1653)に従四位下を拝任した際の口宣案。口宣案には漉きなおした宿紙と呼ばれる薄墨色の奉書紙を使用する。

林3 口宣案

1通 元禄9年(1696)12月5日
池田家資料18-5 34.8×52.4 包紙入

侍従であった綱政が池田家の極官である左近衛権少将を拝任した際のもの。



林 4 池田綱政画像

池田継政筆 1幅 享保11年(1726)10月29日
書跡 53 107.8 × 52.4

3代岡山藩主、池田継政が描いた父綱政の画像。鼻梁を大きく、頬を高く描いており、継政が父綱政をどのように捉えていたのかがうかがえる。画像の上部に書された賛によると、本作は綱政の13回忌のために描いたことがわかり、綱政を想って詠じた継政の和歌も記されている。



林 5 源氏物語図屏風

狩野養信筆 6曲1双 天保3年(1832)
屏風 70-1・2 159.6 × 357.2

右隻・左隻ともに『源氏物語』の第7帖「紅葉賀」^{もみじのが}から画題をとる。右隻は元日の朝、雛遊びに夢中の紫の上が、女房たちに「すでに婿を持っているのだから」と、たしなめられる様子。左隻はその前の年の秋、桐壺帝の朱雀院への行幸^{きよひめ}に際し、源氏と頭中将^{ただのり}による青海波の舞が披露された場面を描く。幕府御用絵師の狩野養信による本作は、徳川喜代姫が姫路藩主酒井忠学に嫁ぐ際の婚礼調度の一つである。



(右隻)



(左隻)



番号	資料名	員数	年代	整理番号	法量(h×w, cm)
1	松平新太郎宛権大納言局奉書	1通	年月日未詳	C9-37	43.2×58.4
2	備前少将宛綾小路宣旨局奉書	1通	[延宝5年(1677)]11月22日	C9-42	42.7×57.8
3	口宣案	1通	寛永9年(1632)10月1日	C4-100-1	34.2×46.7
4	口宣案	1通	寛永9年(1632)10月1日	C4-100-2	34.2×47.2
5	位記	1通	寛永9年(1632)10月1日	C4-101	27.0×161.8
6	宣旨	1通	寛永9年(1632)10月1日	C4-99	37.8×59.5
7	曹源寺様御任官之一巻	1冊	元禄9～10年(1696～97)	C4-107-1	27.5×20.6
8	綱政様御任官之節御勤覚書	1冊	元禄9～10年(1696～97)	C4-14-5	14.0×41.2
9	松平伊予守宛老中連署書状	1通	元禄9年(1696)12月10日	C4-14-3	40.5×56.2
10	曹源寺様御任官ニ付京都ニ而之趣	1冊	元禄9～10年(1696～97)	C4-108-3	28.0×20.8
11	大嘗祭図	1鋪	年月日未詳	T13-90	184.6×267.4
12	御即位絵図	1鋪	年月日未詳	T13-91	95.5×153.5
13	御即位ニ付御勤向御下知帳	1冊	文化14年(1817)8月	C7-310	24.8×17.2
14	御即位ニ付御勤向御下知帳	1冊	文化14年(1817)8月	C7-311	25.0×16.8
15	御即位之節御贈物書付写	1通	[文化14年(1817)]	C7-323-1	16.7×122.0
16	[御即位ニ付御使者勤方書付]	1通	文化14年(1817)8月3日～10月28日	C7-323-2	16.6×195.3
17	御即位御祝儀献上之覚	1通	[文化14年(1817)]7月	C7-324-1	19.6×108.2
18	御即位につき御祝儀献上之覚	1通	[文化14年(1817)]7月	C7-324-2	19.6×83.6
19	[禁裏御遷幸御祝儀使者につき先例書付]	1通	[安政2年(1855)]5月5日	C7-340-1	16.5×46.4
20	首尾書	1通	安政2年(1855)12月10日	C7-338-4	17.8×339.4
21	御馬代受取書	1通	安政2年(1855)12月8日	C7-338-1	36.0×49.2
22	返答書	1通	[安政2年(1855)12月10日]	C7-338-3	19.8×25.8
23	禁中御指図	1鋪	寛文4年(1664)8月	T7-9-1	111.5×83.8
24	新院御所御指図	1鋪	寛文4年(1664)11月	T7-9-2	64.8×57.0
25	禁裏様御庭御絵図之写	1枚	[延宝3年(1675)]	T7-11	108.3×91.6
26	新改内裏図	1枚	文化14年(1817)9月	T9-119	59.0×46.4
27	新板平安城并洛外之図	1鋪	天和2年(1682)3月	T9-127	93.2×59.4
林1	口宣案	1通	寛永3年(1626)8月19日	池田家資料17-1-3	36.4×47.5
林2	口宣案	1通	承応2年(1653)12月23日	池田家資料18-1-3	37.0×61.0
林3	口宣案	1通	元禄9年(1696)12月5日	池田家資料18-5	34.8×52.4
林4	池田綱政画像 池田継政筆	1幅	享保11年(1726)10月29日	書跡53	107.8×52.4
林5	源氏物語図屏風 狩野養信筆	6曲1双	天保3年(1832)	屏風70-1・2	159.6×357.2

1～27は岡山大学附属図書館所蔵

林1～林5は林原美術館所蔵

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期	会 場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後樂園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発 (1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発 (2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月3日～11月19日	岡山シティミュージアム
平成30	岡山藩と寺社	2018年11月3日～11月18日	岡山シティミュージアム
令和元	武家と天皇	2019年10月19日～11月4日	岡山シティミュージアム

記念講演会・パネルディスカッション

年度	記念講演会	記念講演会講師 (役職は当時)	期 日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後樂園	岡山大学農学部教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授 高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授 池内敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学大学院教育学研究科教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授 荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井讓治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授 岩淵令治	2016年10月30日
平成29	池田光政の時代	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 三宅正浩	2017年11月12日
平成30	池田家と国清寺	元岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2018年11月10日
令和元	【大嘗祭】の誕生—古代の皇位継承儀礼の生成と変異—	専修大学名誉教授 荒木敏夫	2019年10月26日

年度	パネルディスカッション	期日
平成23	国絵図復活 東京大学史料編纂所教授 杉本史子 東京藝術大学大学院准教授 荒井経 電気通信大学准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会会員 青木充子 【司会】東京大学大学院准教授 中村雄祐	2011年10月23日

令和元年度企画展 岡山大学創立 70 周年記念
池田家文庫絵図展 武家と天皇

発行日／令和元年 10 月 19 日

主 催／岡山大学附属図書館 岡山シティミュージアム

協 力／林原美術館

発 行／岡山大学附属図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1

印 刷／株式会社プリント・ケイ

岡山大学学都基金

— 地域・社会とともに、
真のグローバル人材を育成する —

学都基金は、平成20年4月に設置しました「岡山大学21夢基金」を再構築する形で生まれ変わり、平成27年4月から募金を開始しております。

本学では、教育・研究活動を通して社会に貢献できるよう、様々な取組、事業等を行っておりますが、一方で国からの運営費交付金は毎年削減され、財源の多様化、自己収入増加を図るよう求められております。そのため、この学都基金を有効に活用し、本学の教育・研究をなお一層力強く推進し、これまでに以上に地域・社会に貢献できるように努力しております。

つきましては、卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様には、イノベーション創出・学都創成・グローバル化の推進を目的とした「岡山大学学都基金」についてご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



基金事業

事業名称	事業の概略	内容
地域振興・イノベーション創出支援事業	地域振興並びにイノベーション創出のための支援を実施	1. 本学が指定する研究テーマ(地域振興・イノベーション創出)の支援 2. 研究成果が社会貢献に繋がるイノベーション創出課題(企業からの提案)に対する事業支援(学内公募) 3. イノベーション創出のための産学共同研究強化の支援(マッチング事業)
教育活動支援事業	優れた教育活動・グローバル人材育成事業へ支援を実施	1. グローバル人材育成事業への支援等 2. 優れた教育活動プログラムの策定・実施への支援等
研究活動支援事業	優秀な研究・研究者への支援、若手教職員の能力開発支援を実施	1. 若手教職員が能力開発のための研修会への参加経費の支援等 2. 海外での国際研究会への渡航費の支援等 3. 若手教職員・女性研究者支援等
修学支援事業	経済的な理由により修学が困難な学生に対し支援を実施	1. 奨学金・意欲のある学生に対し、給付型の奨学金を支払い 2. 授業料免除・学生の授業料につき全額もしくは半額免除 3. 留学支援・学生を対象とした海外などへの渡航費等支援
SDGs推進事業	SDGs(持続可能な開発目標)推進のための事業へ支援を実施	SDGs推進に資する教育プログラム、研究プロジェクト、社会貢献活動への支援等
上記以外の事業	基金の充実に及び目的の達成に必要な事業へ支援を実施	当該事業に応じた支援

特定事業

事業名称	事業の概略	内容
異分野基礎科学研究所次世代革新科学技術展開支援事業	異分野基礎科学研究所における研究活動、国際交流、教育・研究支援活動の推進に資することを目的としています。	優秀な研究・研究者への支援、若手教職員の能力開発支援など

お問い合わせ

岡山大学学都基金事務局(総務・企画部総務課)

〒700-8530
岡山市北区津島中一丁目1番1号
Tel. 086-251-7009 電話受付:9:00-17:00(土・日・祝日除く)
Fax. 086-251-7294
E-mail kikin@adm.okayama-u.ac.jp

寄付金の申込方法

左記連絡先に、住所・氏名をご連絡ください。折り返し、パンフレット等を送付いたします。パンフレットに同封の振込依頼書により振込手続きをお願いいたします。インターネットからの申込も可能です。学都基金の詳細については、ホームページをご覧ください。税制上の優遇措置についても記載しております。(寄付金控除の対象となります。)

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>

【学都基金HP】



岡山大学学都基金

検索



池田家文庫資料叢書



岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編（編集代表：倉地克直）

岡山大学附属図書館に所蔵されている池田家文庫の貴重資料のうち、特に学術的価値の高いものを厳選して刊行しています。

A5版 / クロス装・ケース付

池田家文庫資料叢書 3

「御留帳評定書」上・下巻 各 18,000円（税別）

【上巻】本文 605頁、解説 19頁 【下巻】本文 558頁

岡山藩の政策決定機関である評定所での審議の様子を記録した、当時の社会状況とそれに対する藩の対応を具体的に知る事ができる貴重な資料です。

池田家文庫資料叢書 2

「朝鮮通信使饗応関係資料」上・下巻

【上巻】本文 598頁、解説 22頁 11,111円（税別）

【下巻】本文 749頁、解説 25頁 12,000円（税別）

池田家文庫資料叢書 1

「御留帳御船手」上・下巻 各 7,000円（税別）

【上巻】本文 627頁、解説 9頁 【下巻】本文 717頁



池田家文庫 絵はがき 第一集

岡山大学附属図書館所蔵の貴重資料「池田家文庫」の絵はがきです



8枚入り
286円（税別）

※絵はがきは
出版会のみでの販売です



8枚入り
286円
（税別）

岡山大学資源生物科学研究所
所蔵貴重資料 絵はがき

岡山大学出版会

◇ご購入方法：岡山大学出版会、またはお近くの書店にお問い合わせ下さい。
メールでのご注文はこちらへ → okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
Tel : 086-251-7306 Fax : 086-251-7314

岡山大学出版会 | 検索

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>